

2014 アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト 報告書

日本学校名 [多摩市立南鶴牧小学校] 担当教諭名 [虻川 学] (5年 74名)

交流相手国 [台湾]

海外学校名 [Rixin Elementary School] 担当教諭名 [王 慧玲]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教 科	単 元 名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	総合的な学習の時間	世界に広がる	30

■作品について教えてください。

題 (テーマ)	つなぐ、国境を越えて
絵に込めたメッセージ	相手の国に伝えたい、我が国の文化や自然、歴史を描いた。日本の魅力を伝えるとともに、台湾の魅力も知りたい、受け止めたいという気持ちがあった。左右に分かれた壁画だが、真ん中の円は互いの文化を混在させ、つながりを意識させた。



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・グループで協力して作業を進めることができた。 ・相手意識をもって発表することができた。 ・調べたことを、分かり易く伝えるため、工夫することができた。 ・海外の国に興味をもった。自分の日常生活が、必ずしも普通ではないことに気が付くことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・フォーラムやテレビ会議を通しての交流がメインだったため、作品として残るものが少なかった。 ・テレビ会議の際、音声が入らなかつた。 ・交流のねらい、学ぶべきことについて、もっと児童の間で強く意識させたかった。長期間にわたることで、集中力に個人差が生まれていた。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手国や世界に対しての意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
<ul style="list-style-type: none"> ・台湾のイメージが変わった。ビルが立ち並ぶ都会を考えていたが、フォーラムで送られてくる写真や、壁画を見て、自然も多くあることを知った。 ・台湾に行きたいと思う児童が、9割を超えた。他の国と変わらない、“外国の一つ”だった台湾が、特別な国に変わった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間割やテストなどを送ってきてもらえたため、台湾の教育環境が分かった。日本より一日を細分化しており、様々な教科を学習していることが分かった。また、数学に力を入れているという印象を受けた。 ・テレビ会議を始め、映像が児童に与える効果はやはり大きかった。交流にはぜひ導入するべきである。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
自己紹介	9月	画用紙に自己紹介を書いた紙を持って、写真撮影。フォーラムで交流をした。画用紙には自分の名前の他、趣味や特技、夢を書いた。	慣れない英文に苦戦しながらも、遠い台湾の小学生に自分のことを伝えようと、一生懸命書いていた。写真には笑顔で映ったり、ポーズを考えたりした。	総合
テーマ学習	10月～12月	10月は、自分の小学校の良い所を紹介した。11月～12月は日本の文化や歴史、自然など自国の魅力を紹介した。フォーラムの他、テレビ会議で発表もした。	紹介するために調べたことで、自分でも改めて日本の魅力に気が付くことができていた。テレビ会議を経験できたことで、台湾の小学生が一気に身近に感じられた。	総合
構図決定	10月～12月	台湾の小学校と、フォーラムとテレビ会議(先生同士の)を通して、壁画の構図を決定した。また、互いの国の文化や歴史、自然を描くというテーマに決定した。	決定した構図に合わせて、描きたいものについてアイデアを集めた。	総合
壁画制作	11月12月	グループに分かれて、下絵、色塗りを分担。	自分たちで出したアイデアの中から、さらに精選。より伝えたい風景を選んだ。またより忠実に描くために資料を集めて研究もした。	総合
鑑賞・振り返り	2月3月	・作品と共に記念撮影。 ・学年で、振り返りを発表。 ・フォーラムで相手国に報告。	台湾の小学生の絵の上手さに驚いていた。本当に壁画が完成して戻ってきたことに、喜びを感じていた。	総合

■学習目標(つけたい力)と成果(ついた力)について教えてください。

「目標」先生が指導に当たって重視したことをABCで記入(A:特に重視した B:重視した C:特に重視しなかった)

「成果」先生の手応え(5:とても身についた 4:身についた 3:どちらともいえない 2:あまり身につかなかった 1:身につかなかった)

学習目標・つけたい力	目標	成果	成果についてそう感じた場面・理由
自文化の理解	A	4	児童の振り返りシートを読むと、自国の文化についての詳しい記述が多く目立った。新たに気付けたことも多かったようだ。
異文化の理解	B	4	もっていた抽象的なイメージから、より具体的な風景を思い描けるようになったことが、交流した最も大きな意義だったと思う。
コミュニケーション力 (説明・共感・英語)	B	4	テレビ会議では、テレビの向こうにいる台湾の小学生へ思いを伝えようと、歌ったり、劇を演じたりなど、様々な工夫ができた。
情報活用能力 (情報収集・発信)	B	4	多くの情報の中から精選することには課題が残った。しかし様々な方法を使って、多くの情報を収集することはできた。
人間関係をつくる (学級内・交流相手)	A	5	学級の枠を越え、学年混合でグループを組んだ。調べたり、話し合いをしたりなど、取り組みそのものが学年間交流だった。
協働する力 (役割分担・協力)	A	5	グループで役割分担を明確にし、互いに助け合いながら作業を進められた。壁画作成がその最たるものである。
学習を追究する意欲	B	4	調べることで、逆に分からないことが増えていくが、それをそのままにせず、さらに調べたことで、作業を深められた。
表現力 (伝えたいことを絵で表す)	B	3	日本の自然や文化、名所を壁画に盛り込んだ。始めは慣れなかった絵具にも、だんだん慣れ、思いを込めて描くことができた。
作品を鑑賞する力	B	3	台湾から届いた壁画を鑑賞し、それぞれに思いを発表させた。台湾から来た壁画の良さを見つけて、発表することができた。